

青年部・女性部がJAに提言 常勤理事との懇談会



活発な意見交換がなされた懇談会の様子

本JA青年部と女性部は、米の直接支払交付金の廃止やJAの自己改革などに対する生産現場からの意見をJAに提言することを目的に、2月2日、古川のグラウンド平成で「JA常勤理事との懇談会」を開き、部員合わせて23人が参加しました。

部員からは「農業政策が変わるがJAとしての対策はあるのか」「自己改革と位置付けた本支店機能再編実施より一年経過したがサービスの向上につながっているのか」などの質問が出されました。佐々木椋組合長は、地域とも補償制度等を活用して大豆の作付拡大を図り生産調整に取り組みことを説明。本JAの自己改革に対する取り組みについて佐々木浩治専務は「一年が経ち課題も見えてきた。新年度から解決に向けて取り組んでいきたい」と話していました。

懇談後、青年部の中條泰洋委員長は「農業を取り巻く環境が大きく変わってくる。生産現場の意見をJAに伝え、応えてもらう体制を強化していく必要がある」と話していました。

賃貸の入居率向上を目指し オーナー会通常総会



小関幸一さんが議長を務めスムーズに議事が進行した

本JAオーナー会は2月14日、古川のグラウンド平成で「第19回通常総会」を開き、提出された議案を可決承認しました。

総会には、平成29年度の事業報告や平成30年度の事業計画など3つの議案を提出。出席者の承認を得て原案通り可決しました。

総会終了後には、賃貸への入居率向上を目指し、研修会を開きました。講師は株式会社パッファローITソリューションズの山本大介さんが務め、「入居者に人気の設備」について講演。入居者に「インターネット無料設備」の人気の高まっていることに触れながら、賃貸へのWiFi導入を提案しました。

また、本JA担当者が今年の賃貸入居率の推移や主な取り組みを説明。賃貸や一般住宅の新築・リフォームの推進や入居募集資料を見やすく整備したことなどを報告しました。

同会は、本JAが管理する賃貸住宅のオーナーとその家族で構成され、現在は54人の会員が在籍。この日は、34人が総会に出席しました。

年間465人が参加 ミニデイサービス「ひなたぼっこ」



カードゲームを楽しむ参加者にとじの会会員(左から2番目)

本JAは、女性部、助け合い組織にじの会の協力を得て管内の地区公民館や集会所などでミニデイサービス「ひなたぼっこ」を開いています。平成29年度は、23回実施し、延べ465人の地域高齢者が参加しました。

2月21日、志田地区公民館で今年度最後のミニデイサービスを開きました。参加者は、にじの会会員2人を講師に歌や手遊び、手作りの50音カードを使ったゲームを楽しみました。昼食は、女性部の手作り弁当が振舞われました。

参加者は「ゲームもお弁当もとても良かったです。今後も続けてほしい」と話していました。

本JAでは、福祉活動の一環として同サービスやJA古川型福祉活動「わいわい茶論」などを実施し、地域高齢者が集う場づくりにより健康寿命の伸長を目指しています。